

私の学校経営信条

全国の校長先生に、
学校経営上の信条やお取り組みを
月替わりで紹介いただきます。

私の教育信条は、生徒のよさを引き出し未来に希望を持たせることである。校長となつてからは、生徒だけでなく、教職員一人ひとりのよさとその地域・学校のよさを最大限に活かす学校経営を心がけている。

商業教育のよさは「つながり」

数学の教員である私が商業高校の校長になった。そこで全国商業高等学校協会の中山理事長に「商業教育の一番のよさは何ですか？」と質問すると、「つながりです。商業は人と人のつながりで生まれるものだからです」と教えていただいた。

授業、放課後や休日の生徒の活動も可能な限り見て回った。そこには驚くほどの「社会のニーズに合致した学び」「生徒主体の学び」があった。3ヵ月後に私は、「商業教育のすばらしさ」を熱く語れるまでになり、まずは自分が地域とつながるために地域に出向き、理解者を増やしていった。

学校のよさを土台に ビジョンを示す

次に、学校がこれまで積み上げてきた地域

生徒・教職員・地域・学校のよさを 最大限に活かす

からの信頼を土台にビジョンを整理した。

- ① 学校教育目標（時代に合うよう一部改訂）
- ② 身に付けさせたい力の柱（図参照。教職員全員の話し合いで決定）
- ③ キャリア教育全体計画（図で可視化）

- ④ 本校の特色（6点に整理し魅力を発信）

- ⑤ 今年度の重点目標（4点を表で提示）

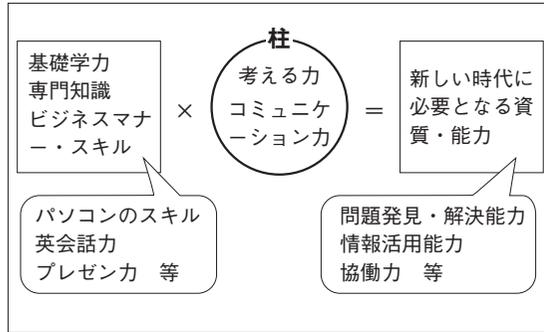
重点目標の一つには地域連携を掲げた。教室のなかだけでは学べない「生きた学び」を地域の協力のおかげで実現させている。

2年生の課題研究の授業では、八戸市、ヤフー、地元IT企業アイテコワークと連携して、COG（東京大学主催の地域課題解決コンテスト）に挑戦している。今年度は生徒160人が終日、中心街の施設で大人と一緒に地域活性化のアイデアを出し合うところからスタートした。関係者はチャットワーク^①でやりとりするので派遣依頼等の書類は不要である。スピード感、よいものを追求する姿勢を民間から学ぶこともできた。

3年生では課題研究が週3時間になり、生徒たちが班ごとに地域に根ざしたテーマを決め、本格的に探究・実践に取り組む。街で調査する、関係者から話を聞く、商品や企画を

①クラウド上でチャットやファイルの共有などができるコミュニケーションツール。

図 身に付けさせたい力



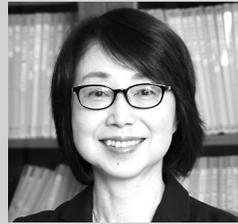
新しい時代に必要となる 資質・能力を育む

考える力とコミュニケーション力を育むこ

提案するなど主体的に活動する。12月にパワーポイントでプレゼンし、最終的には各自が20枚の報告書に仕上げる。
ほかにも県や市の10事業を活用して地域の教育力を活かした学びを実践している。
これらの活動は、地域貢献や若者の県内定着にもつながっている。



iPad、ミニホワイトボードを活用した国語の授業



青森県立
八戸商業高等学校長

荒川 由美子

とを柱に、若手中心のAL推進委員会^②を牽引役にして全教科で授業改善に取り組んでいる。今年度は空き教室にプロジェクト、iPadとMIDI環境^③、ミニホワイトボードを設置した。さまざまな活用の仕方が試されており、おしゃれな机と椅子（赤や緑）は生徒にも好評である。また、年2回の互見授業週間を設け、定期考査には論理的思考を問う問題を1問以上出題することにした。

このほかにも、国際経済科の英語によるデイベート、情報処理科のアプリ開発など、特色ある授業がたくさんある。

来校者から「生徒が生き生きしていますね」と言われることは本校の自慢であり、これからも大事にしていきたいと思う。

教職員のよさを活かす

校長一人の力はたかが知れている。校長は分かりやすいビジョンを示し、後は多くの人々の力を信じ、力を結集することが役割であり醍醐味である。

私のモットーである「恐れない者の前に道は開ける」の精神で、これからも魅力ある学校づくりに挑戦する。

②アクティブラーニング推進委員会（「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を牽引する）

③これまでも情報処理棟の3教室にはWi-Fi環境があったが、普通教室棟にも順次整備する計画である。